
説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	三原 立也君
観光交流商工部長	阿比留忠明君
市民生活部長	村井 英哉君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	内山 歩君
水道局長	舍利倉政司君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	原田 武茂君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は2人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。16番、大浦孝司君。

○議員（１６番 大浦 孝司君） 皆さん、おはようございます。私は今回の一般質問のまとめを、ゆうべからやっておりました。

本日まとめた肝心要の要約した資料をうっかり忘れました。しかし、基本的に全て頭の中に、しっかり言わないかんことは入れておりますので、その範囲でとどめてお話をかなり省略すると思いますので、よろしくお願いします。

それでは、通告に従いまして市政一般質問を行います。

まず、第１点目ですが、これは、今年１月に長崎新聞が九州北西部の沖合の活断層の位置図を新聞紙上に公表した図面でございます。これを、私は３月の定例会に、同じ図面を、この議場で明細を掲げております。これを十分に知ることが必要である。そして対馬の島民のみならず、この海域に関わる人たちの思いも、私はこれで対馬だけのことではありませんよと、そういうふうな思いというのが、この地図を見たときに、私は起こるような気がいたします。

さらに、西日本新聞におきまして、２月に、長崎県防災企画課は、この北部沖合、西部沖合の活断層の位置図に示された国の専門的な地震対策推進本部、このことについて、言葉では私も確認しまして、県はどのようなことをするんですか、この資料からは津波の高さ、震度、マグニチュードあるいは震度７とかあるんですが、このことが全く明記されていないという言い方をして、長崎県は、特に対馬地域にこの活断層が取り囲んだようにある。非常に県としてチェックを、詳細を把握する必要がある。独自の調査をして、この詳細を、本年度から始めると、取りあえず１,０００万円の計上で、金額的なことは別として、概要的なことは１年間で事を進め、詳細については複数年にまたがることもあるような話をされておりました。

市長のほうに一般質問の内容について、どこまで把握しておるかというふうなことを失礼ながら、企画の段階でこれをどう持っていくかを検討しと中で、数字をどうのこうのというところまではいっておりませんが、専門機関の方々と十分な協議をして、これを長崎県独自に固めたいという、非常に我々にとって期待のするところであるということでございます。

今のことににつきまして、私のこと以外のことがあれば、市長のほうからの答弁を求めてみたいと思います。

続きまして、美津島町のことなんですが、雞知から西地区に行く途中に箕形という集落がございます。この集落の水田、大きな水田ではございませんが、昭和５４年度に圃場整備事業、これは新農業構造改善事業という正式な国の補助事業で圃場整備、いわゆる湿田を解消して乾田にして、この土地改良を行ったと。

その後、順調に米作が安定した状況で、作付の取組を見て問題はなかったんですが、昨年丸々１年間作付が行われなかった。その理由は海水が圃場内に流れ込み、そして作付が、塩田ですから、当然作付不可能、ぼつぼつ今年あたりはどうだろうかと、春先見たところ、今年も駄目。

あれを見たときに、これは行政機関の中で、一部海岸保全の海側のほうが災害にあわれとりました。これを災害というのは、構造物が破れた状態です。コンクリートの。

このことを機に、潮の流入があつて、あの田んぼは復元しておらない。2年間の放置状態について、その原因とこれからの見込みについて、対馬市として、護岸の対象が建設部、対馬振興局が所管というようなことで、その方々たちの意見も聞きました。

あろうことに川の水が、田んぼのほうの後ろから駄目押しで、ちょうどシーカヤックの事業所の通る道です。それが堤防になっておりますが、このコンクリート護岸を30メートルほど倒したという内容となります。いろいろ結果的なことについて、直しておらないということは、原因もつかめておらんことであろうとは思いますが、そのところを、市長じゃなくて担当部長でも結構ですが、通告の中で、振興局に把握された内容について報告をお願いいたします。

原因と何でその回復にいまできないのか、このことについて明確な答弁を、住民として、潮の入った田んぼちゃ、もともと放棄をした場合は常に見ますが、そうでない場所では、私は初めてではないかなと思います。

次に最後ですが、一般社団法人「島の海と陸を豊かにする会」、この会は全国的な活動をしている中で、たまたま長崎県と対馬、五島、この3点について、長崎県の佐世保、3点について大きなプロジェクトの構想を描いております。

その中に、対馬市は将来この島の産業を変えるだけの再生エネルギーの水素の生産を、カナダの特定の組織と日本の社団法人をされてる会の代表が業務提携をして、日本国内で水素の開発、言葉では施設を導入して、この島で生産をやるんだ、日本の供給の一部をこの島でやりたいと、その理由もお聞きしました。

市長に尋ねたいのは、これの計画が2年目を迎えるそうであります。概要をつくってから2年目、私は1回市長室の応接間におきまして、本人も初めて見ました。関係者が寄った中で、話を聞いたんですが、その後、この事業の展開が進まない、あるいは対馬市の動きとしても非常にはっきりしない。将来の希望はないのか、私はそのことを今日、比田勝市長に、あなたがどう思っておられるのか、ここらはっきり話を聞いてみたい、じかにあなたの話を聞きたい、こう思っております。

この3点が今回の一般質問の内容でありましたが、枝葉をつくった資料全部忘れてまいりまして、タブレットに出した事務局の資料だけでやっていますが、中身は今から話し合えばいいと思います。よろしく市長、お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、海域活断層の県の調査についてでございますが、県が今年度実施しております県内及

び周辺部海域の活断層調査について、防災企画課へ確認を行いましたところ、令和４年度に政府の地震調査委員会が発表いたしました、今後３０年間の長期評価に基づき、長崎県周辺域に新たに確認されました５つの活断層についての予備調査を行うものであります。

この調査は、現在、県の地域防災計画の地震等の想定になっております、平成１７年度に実施しました長崎県地震等防災アセスメント調査とは異なり、今年度実施分については、政府の調査結果で得られました断層位置、深さ、マグニチュード等を基に、現在の知見を用いた簡易調査であり、この調査結果を参考に、今後詳細な調査を実施するか否かを検討することとなっているようであります。

今現在、令和７年度に詳細な調査を行うかにつきましては、未定とのことであります。今後は、今回の予備調査の結果について、詳細調査への意向があるようであれば、県とも情報共有を図っていきたいと考えております。

次に、２点目の箕形縣ノ浦圃場整備後の水田管理についてでございます。

御指摘の水田は、箕形地区で組織された組合により耕作されている１２筆からなる約２ヘクタールの水田で、主要地方道沿いにあり、箕形地区の湾に面した県の海岸保全護岸の背後地となっております。護岸と水田との間には潮だまりがあり、その排水用のボックスカルバート、水田の横を流れる普通河川の河口の２か所に海水の流入防止用として、潮位の干満に伴って開閉するフラップゲートを市が管理しております。

令和４年７月の大雨により海岸保全護岸の一部が崩壊し、令和５年度に県により災害復旧工事が行われましたが、その後においても海水が流入している状況でございます。現時点において、原因箇所を特定できておりませんが、まずは現地調査において確認されたボックスカルバートやフラップゲートの隙間箇所の修繕や、必要に応じて県とも協力しながら海水流入対策を講じてまいります。

次に、３点目の一般社団法人「島の海と陸を豊かにする会」のプロジェクトについてでございます。

昨年１２月定例会の際も同様の御質問がございましたので、その際の答弁、重複する部分もあるかとは思いますが御了承いただければと思います。

まず、島の海と陸を豊かにする会でございますが、対馬市内外のエネルギー関連の団体や研究者など約６０人の参加により同会が設立されていること、また同会が人口減少や農林水産業の衰退、海岸漂着ごみ問題といった本市を取り巻く様々な課題解決を図る対馬プロジェクトの一環として、太陽光発電によりウニ、ナマコ等の陸上養殖に取り組む計画や、集落の用水路などを利用した中小水力発電設備、垂臨界水を用いたごみ処理施設の整備、大規模洋上風力の段階的整備等を掲げていることについては、新聞報道等で承知しているところでございます。

また、昨年11月東京大学をはじめとする関係者の皆様が来庁され、取組概要の総括的な説明を受けたところでございますが、その際、再生可能エネルギーの水素化といった詳細部分までの説明は受けておりません。

なお、太陽光や風力、水力、バイオマスといった再生可能エネルギーから得られる電力を利用して、水を電気分解し製造されるものをグリーン水素と呼び、再生可能エネルギーを利用するため、CO₂の排出が抑えられるというメリットがあることは承知しております。

その一方、再生可能エネルギーの普及が先立って必要なため、水素化までには、再生可能エネルギーの供給体制の整備に時間がかかることや、水素エネルギーの輸送や供給にかかるコストも無視できない問題であると考えております。

島の海と陸を豊かにする会が掲げる構想内容にかかる市の考え及び意見でございますけども、本市におきましても、これまで市内温泉施設へ木質バイオマスボイラーを導入するとともに、次年度以降においては、市公用車における段階的な電気自動車の導入を計画しており、脱炭素化を推進していく方針であります。

よって再生可能エネルギーによる水素化も含め、具体的な提案や連携等のお話があった場合には、水素化の前提であります再生可能エネルギーの供給体制をはじめ、製造手法や施設運用面、輸送面等の総合的なコスト面など、取組の詳細等を検討しながら適切に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） ちょっと確認をいたします。

長崎県の防災企画課、このほうから本年度の取組について調査対象として、市長の答弁は5地区言ってたんですか、5か所、さっきの答弁。調査対象、要は活断層の調査対象。

すいません。私の聞き間違いでございます。私も電話で聞いた範囲では、1番目に白島沖、ここです。ここは遠い場所なんですけど、ここまでの範囲を北部の区間というふうなことで出ております。それから沖ノ島、この沖ノ島が多分この延長にあらうかと思います。西側断層及び北方延長部の断層ということで、沖ノ島の位置がこのラインにならうかと思います。

それから小呂島かコロ島かわかりませんが、呼び方は、これが対馬のちょうど壱岐と対馬の間部にある場所がこの小呂島近海断層帯、そういうふうな名称になっております。ここです。

それから、対馬東水道断層、これは江戸時代に起きた巖原町の武家屋敷のほとんどの石垣が崩れたと、これが対馬東水道断層、この位置です。これがマグニチュード7.0というふうな書き方を新聞で資料を見たんですが、現在出しておられるそういうふうな震度の測り方、そして過去のことについては必ず一到するものではなからうかと思います。

しかし、非常に対馬の厳原から上対馬のおおむね中間までの距離に値する過去の一番名前が出てきておる地震の正体は、ここであるということは間違いないと思います。

それと、政府の行った断層の範囲は20キロ以上ということ、これが明確に出されておりますので、この点については対象として、まず対馬に近い場所、ここが第一線に近い、そして沖ノ島のこの延長、これも近い。そういうようなことがあります。小呂島はこれもやっぱりよう考えてみれば、壱岐に近いんですが、対馬の一部にかかわり合いがあることは間違いない。

それから、対馬北方沖断層、これは比田勝沖合になります。ちょうど朝鮮海峡とほぼ対馬海峡の、対馬海峡じゃありませんけども、日本海のちょっと対馬と朝鮮半島のおおむね中間点、やや対馬寄り、この距離は対馬寄りです。そういうふうなことであります。

それから、対馬上県西方沖断層、これも結構陸に近い位置になっております。それと豆碓崎の僅か下方に対馬南方沖断層、これです。それから七里ヶ曾根断層、これは壱岐、対馬のちょうど中間になりまして、やや対馬寄りになります。そして最後に、第1五島堆断層帯、この9か所が九州の北部西部地区の沖の断層が、政府のほうから公表された。

これを私も電話で確認した範囲では、やはり津波の高さ、それから震度、マグニチュード、それから震度、2つあるそうなんですけども、いずれのほうで出すか分かりませんが、この地震の規模が政府の資料じゃ分かんじやないかと、そしてもう一つは、現在、昨年そういうふうな原子力発電の廃棄物処理の候補地として話が上がった中で、そういう動きがある中で、十分この地震の要は程度を確認する必要があるが非常に大切である。そういうふうな意味合いでございました。

それと、先ほど新聞の紙上では、今後30年間、今から30年間に起こる割合が1から3%という数字がありますが、このことと今後というのは全く関係ありませんので、要はスパンが長いということです。スパンが。

これは宗家の宗家文庫史料には、その地震の実績をきちんと記録されている中で、数百年の場合によっては地震が起きた後の現在までの日数がかかっております。

ですから、30年間を基本にした場合のパーセンテージというのは、南海トラフあたりがそういう数字を、30年後に起こる確率でやっておりますが、パーセンテージが低いから問題がないということじゃなくて、地震の起こるサイクルが長いんだというふうなことに気をつけて考えないかんとっております。

この結果を今後チェックする必要があると思いますが、今の段階では、そういう調査が進めようというふうなことを、私も電話ですが、確認いたしまして、市長が答弁されたとおりの内容だと確認いたしまして、この件については前に進めたいと思います。

ちょっと先ほどの縣ノ浦の水田の件なんですが、建設海岸の災害復旧をしたのが2年前です。おおむね2年前。そういうふうな調査の資料では、ちょっと待ってください、令和4年6月から

7月の災害で護岸が崩れた。その幅は30メートルの長さによって崩壊したと。その海のほうに上流部の川から水田を乗り越えて、その関を崩した、そういう説明でありました。

これは対馬振興局建設部河港課大石係長、そして技師の高屋技師、その方のお話としてメモしたところ、元の石積みは、ほとんど問題はなかった。堤防の利用は車1台がどうにか通れる程度で、要は防波堤じゃなくて、ちょうど大洋真珠、今ではシーカヤックの事業所がございますが、そこに通られる方々の車がやっと通る中で、事は何とかしのいたが、工事に当たっては内堤側に道を仮設の使うて、工事が済んだということを申されていました。しかし、どこから水が入っておるかというのは追求しておりません。

この辺に私は、双方です、工事は建設課建設護岸、しかし背景は過去農政によって圃場整備した場所、集落の生産者は非常に真面目にありまして、水稻作を懸命に行ってきた過去、現在まで、その中で、今後はという先ほどの市長の答弁、現地のボックスカルバートの辺から水があふれるというふうな、吹き出しよるといようなことが申されましたが、しかしこの間2年です。2年。

ほんと言うたら、令和5年度は当初からお互い話合いの中で、どこから漏水があつとるか、これやらなかったんですか、やったんですかね。今年のことです。今日は今後のことを言っていました、その辺は、担当部長どうですか。今年何もやっとなんですか。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） お答えいたします。この護岸、海岸保全施設災害は、令和4年度ということで、被災を受けまして、完成したのが昨年、令和5年度ということで、完成してその後に、やはり満潮時において海水の流入、こちらが認められたということで、こちら地区のほうからも要望等受けております。

その後に、今年に入って、そのときにも一応地区の方とも、長崎県のほうと市の基盤整備課も含めて立ち会いをした中で、そういうふうな状況が見られるということで、それに対しての原因究明までには至っておりません。

一応、市のほうとしましても、今年5月再度長崎県のほうと、現地のほうを確認いたしまして、まず護岸については災害等でして、護岸からの海水の侵入、これがどうかというところまでの原因究明までには至っておりませんけれども、先ほど市長の答弁からもありましたように、フラップゲート、こちらのほうを詳しくまた調査いたしました。

その結果、やはりフラップゲートのほうが僅かな隙間、こちらのほうが確認できましたので、それが全て原因ということまでは分かりませんが、まずはその隙間に関しては貝類の付着によって隙間が生じているということで、まずそういう貝類のかき落とし、あとフラップゲートにつきましてはゴムのパッキン等、こちらのほうについてもちょっと老朽しているということで、その付け替え、こちらのほうを早急に、先ほど修繕という形でするように検討した中で、それが

完了後、それでも潮が、海水の流入ということになれば、こちらについてはまたその護岸施設、県の管轄になりますけれども、県のほうと再度どういうふうなことが考えられるか、原因を究明して対応したいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今の説明聞いて、要はどっから漏れとるか分からんちゅうことであったんでしょう、簡単に言えば。

私、参考までに聞いてほしいことあるんですが、今の護岸をコンクリートで巻いておりますが、これは完全に干拓事業です。海を仕切って背後地を、水田をつくる。そして引き潮になれば水を少し潮遊びのところがあります。そこに水をためてそれから引き潮になれば、それを出すという、そういう干拓事業を江戸時代からやっとの堤防だと思います。

それがほとんど浅茅湾近辺の水田はそういうふうなことを一体的にやったのが、私は高校生時期ぐらいの、ここに1回こういうことがあったんですが、樽ヶ浜という集落があるところの、これも干拓事業です。約五、六丁ぐらいの、もっとあるでしょうか、ちょっと国道の法面まで水田でありましたから、かなりの広範囲な干拓事業をやっとなるんですが、ここの堤防が一部決壊、簡単に言えば、海側の石垣が僅か崩れ出したら、それをいいことに、潮のオーバーフローができて内堤に水が入る。それを止めるということで、私は人夫で駆り出されていった経験があるんですが、そのときのお話を聞いたら、江戸時代です、造っとうとが大体。あの干拓を、対馬の水田がないから海を干して、そういうふうな行為をやったわけです。

海に面する石垣は強度で頑丈な石を使う。その背後には小石を詰めて、その後、内堤にまた石垣を積みますが、その中間はみんな赤土なんです。赤土を上からついて、そして締めて水を止めてるんです。

私はそのとき思ったです。どこかの赤土は恐らくその災害復旧、災害前は、水田は漏れとらんやったんだから、その間にどっから侵食されて、じわじわ赤土が中から抜けとる可能性じゃないかなと私は見ました。

だから、表向きコンクリートで覆われた場合に安心するようなことなんですが、元の堤防にコンクリートを巻いたのが今の姿なんです。ですから、根本はその中に赤土が入っとうということなんです。石垣と石垣のあい中に、それが江戸時代の工法で、聞いたところには、そのときに誰がそんなことをやったんかということでありましたが、与良郷という1つの組織体がその工事をずっとやったそうです。それが全部その石垣と赤土の構成です。ここのところは、私はヒントだな、恐らくこの2年間の間に、中に入っとうた赤土が潮の引き潮か、満ち潮の中で侵食されていった可能性は大であります。

極端に言うたら、空洞に近い状態になっている可能性もありますので、これは施工の関係者の技術の世界でありますから、ただ参考にしてほしいのは、赤土で全部中身を締めたということで、水は止まっていることを頭の中に入れてください。建設部長。それは県の河港課、そちらの係長大石さんに話しされて、コンクリートで災害復旧を対応した前に、地下の状態がひょっとしたら水が漏れていく過程が、赤土の侵食があったかもしれませんが、そうなれば空洞にいくらかなっとるはずですよ。全部赤土で詰めているんだから、石では全然止まらんとですよ。何で止めたかというのは、特殊な土を運んできて山から、それで上から締めたということです。これが江戸時代の工法です。

これを一つ参考にして、それを造った上に上からコンクリート巻いたのが今の姿ですから、その土が抜けたという可能性を逆にチェックして、チェックじゃなくて、そこら辺りが基本になるでしょう。追求していくことも参考にしてください。それが私のメッセージです。

そしたら3点目の会のことで10分ほど時間をもらいたいと思います。

2050年、今から26年後にはCO₂排出する燃料を、日本もゼロにするという国際会議の中で発言しております。26年いうたらすぐ来ます。だから今の車の問題も早く電気に替えないかん、あるいは水素の問題が10年ぐらい前からあったんですが、なかなか進まない。しかしそれは技術がかなり難しい世界らしい、それをやるまでに。ところがそれを発明した方がカナダにおられて、その方が今、島の海と陸を豊かにする会の組織と提携しとるみたいです。

ですから、今後日本国内で、このことがやってくるというふうなことは見込まれるわけですが、なぜ対馬がそういうふうな格好になっとるかということは、その会の構成の中に、理事に対馬の出身の方がおるということでありました。

ですから、私は何も対馬におるから急いでするかということじゃなくて、市長、私さっきあなたに申し上げたことは、島にこれを導入した場合の絵を、絵といいますか、一つその前に私は今回、この島にそれだけ水素を製造するような水があるだろうかということで、河川のその調査をすることについてのことを、あなたのほうに質問しようかと思っと思ったんです。それでよくよく聞いたら、もう全く違う世界なんです。海水を使う、全部海水を、思いもせんことをやったんです。海水を使こうて水素の製造をやるということやったんです。

そのことも資料に書かれて、その有名な博士がおられますけども、そして水を、あるいは海水を電気分解して、そういう水素を作る機械を発明して持っておられて、もう特許取られてるんです。それがどこに落とそうかという話、今話が進んどるようです。私は見た中で。

なぜ対馬なんですかと、本来いいとこでやりたいんでしょうがと、私はそこまで言うんですが、こう言われました、対馬という国は、以前対馬国というふうなこと、一支国という書き方されておりますが、独自のやはり国のはぐれた中で、一つの島の位置づけをされとおった。特に、

江戸時代は外国との貿易がない中で、対馬と韓国との関係の中で、国の所得が伸びたことは、島の所得が、所得といいますか、経済が大きくなったことは間違いございません。そういうふうな繁栄があった。そしてそれから明治に移行した後、どんどんどんどん対馬がいいときもあったろうが、衰退して現在は人口も激減の島になってしまったという中で、水素を入れてこの島を復活させること、実は思っておりますと、こういう言い方された。これ事務局長の方ですけども、何も金持った場所で事業することだけじゃなくて、そうではなく意志があつて、落ち込んでいく中で救うことも、これが一つの政策でもあります、言い方されていまして、市長、そこのところ少し、接近されて島でこれを導入した場合の絵を、プロジェクトを島に下ろした場合にどれだけの建物が要って、あるいは土地の面積が、工場の面積が要るか、あるいは人が要るか、そこらのことを、仮に今年以降、相談されて、対馬の絵を描いてみませんか。

金は、この事業をやった場合には、大きな出資するファンドの世界が背景にあるみたいです。これ読んでみたら、だからそれで島の金を使うということではなくて、そこところは安心されて、取り組んでほしいと思うんですが、このことをあなたに今日、やってほしい、即、というのが、どんどんどんどんよそが、やろうとしてます。その分まだ手を挙げて、ですから、事業を始める前の段階の構想のチェックをするべきではあるが、そこに着手されたらどうかということを、私はあなたに話をして、今日はしたい。そういうことで思っております。

ちょっと今の言葉、私も十分な説明ではなかったかもしれませんが、どう思われたか、この島を建て直したいということでの意志から言えば、私は前に進んで、そういうプロジェクトを受けて、コンサル的な、要は島なりの絵は描いていいんじゃないかなと思うんですが、その答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、私も直接山崎さんとお会いいたしまして、お話を聞くことはできました。

その中で、私が特に感心をいたしましたのは、対馬市と姉妹提携を結んでおります瀬戸内海の瀬戸内市の中で昔からある広い塩田を、ここを太陽光発電の一大拠点にした。これが聞くところによりますと、山崎さんたちのグループが造ったというお話をお聞きしましたので、私はそのことについては、実際、私も瀬戸内市に行ったときにそこを見せていただきました。大変感激をしたところでございます。

そういう関係もありまして、これからは、先ほども答弁いたしましたとおり、この水素による活用、水素の活用というのが、これからのSDGs等も含めて、世界の主流になってくるのではないかなという思いは持っているところでございますし、このことについて、ただ、今の段階ではまだまだ私たちも詳しい状況、そしてまた内容を把握しておりませんので、もう少しこの内容

等を、勉強をしながら、そしてまた、この山崎さんのグループとお話をさせていただければなどというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） もう1分しかありません。多分30秒ぐらいでしょうが、私は、あなたは全てこなしたら体がもてません。副市長2人体制の中で、そのことを、私は、発していただきたい。それを、よし、私はやろうという副市長があってもいいじゃないですか。私はそう思います。そして最後に、決断をしてくださいということでもいいじゃないですか。

しかし、その辺を勢い持ってやらんと、島は追いつかん。じわじわ沈んでいくけ、私はこれに飛びつかないかんと思います。これまた後で話しますが、そういうことで、時間が来ましたので、質問は終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、お疲れさまでございます。13番議員の波田でございます。

国をはじめとし、長崎県も政治家の動向が取り沙汰されておりますが、地方に影響がないよう願ってやみません。

対馬におきましては、比田勝市長は道を極めるとの決意で、対馬づくりへと前進していただいておりますので、安心はしているところであります。市長は、「かっちえて！しまづくり」の事業の中で、市民と直接意見交換ができるすばらしい機会を設定されておりますが、効果は出ておりますでしょうか。健康自治体を目指しすぎて積極的じゃなくて消極的にも、私は感じる場面があります。我々議員も市民でありますので、真摯に受け止めていただけるものと思い、質疑に入ります。

今回は大きく2点4項目をお尋ねしますが、前登壇者の方々と重複する答弁は、割愛していただいても構いません。

まず、資料として提示しております、過去10年間の人口推移を御覧ください。タブレットに